関西グローバルヘルスの集いオンラインセミナー第4弾 「COVID-19 そのとき、現場は動いた! 第3回 教育•学校編



サラヤ株式会社 メディカル事業本部

2014年サラヤ株式会社入社。現職参加制度を利用し、 2018年~2020年青年海外協力隊参加。 西アフリカのベナン共和国でコミュニティ開発隊員と して活動。KGHの集い運営委員。

2020年2月、新型コロナウイルス感 染症の流行により、全国の小中学校は臨 時休校となり、子どもたちの生活もめま ぐるしく変化しました。関西グローバル ヘルスの集いでは、保健・医療といった テーマを多く扱っていますが、この新型 コロナウイルス感染症の影響を真っ先に 受けた学校や子どもたちの状況を知り、 これから子どもたちの健康をどう守って いくか、皆さんと考える時間になればと いう思いから、第3回教育・学校編を テーマにオンラインセミナーを開催しま した。

初めに大阪教育大学附属高校平野校舎 の堀川理介さんに学校現場からの報告と して、新型コロナウイルス感染症流行か ら現在までの対応や先生、生徒の皆さん の状況を詳しく伺いました。休校のため のオンライン授業や宿題作成の対応、家 庭への連絡など、緊急で対応された大変

さは計り知れませんが、その中でも周囲 への気遣いができる子どもたちの姿を先 生方はしっかり見ておられたり、生徒自 身も感染対策を考慮したうえで、行事を 企画運営するなどの工夫を行ったり、コ ロナ禍でもあらゆる気づきがあったのだ と感じました。また生徒358名にコロ ナ禍において、困っていること、行動で 変わったこと、意識や興味についてアン ケートを実施された内容も紹介され、生 徒の皆さんの思いを知ることができ大変 興味深い内容でした (図1)。

生徒にとっては今しかない学生生活で あること、どんな状況でも小さな機会、 できることを模索していきたいという生 徒を中心とした堀川さんのお話はとても 心強いものでした。

次に、東京外国語大学多言語多文化セ ンターの小島祥美さんに、外国につなが る子どもたちをテーマに外国学校の子ど

もの健康問題と平時の対話から生まれた 地域での取り組みについてお話を伺いま した。

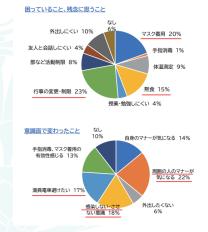
日本では、外国籍の子どもたちは就学 義務の対象外とされ、外国籍の約 18% (約6人にひとり)の子どもたちが社会 から「見えない」状況下に置かれている こと、また、現行の日本の制度(図2) では、外国学校は行政から健康診断を行 うためのサポートを得られないなか、地 域病院のサポートを受けながら健康診断 を実施しているブラジル学校の事例など をご紹介頂きました。

また、地域の取り組みとして、教育委 員会と大学生がコラボし、外国人の子ど ものオンライン学習サポートを実施した お話では、大学生と交流することで、子 どもたちが日本語習得のみならず、明る くなり、自信を持つきっかけになったと 地域とのつながりの重要性を示されまし

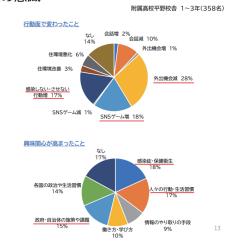
話題提供に続くパネルディスカッショ ンでは、小島さんのお話を基に、コメン テーターの小笠原理恵さん(大阪大学大 学院人間科学研究科)が、WHO でもへ ルスプロモーションの実践の場として学 校現場に焦点をあて、児童生徒や教員の みならず、地域や家族との相互交流も視 野にいれた健康促進のモデルづくりを推 進しているというヘルスプロモーティン グ・スクールについて紹介されました。

ファシリテーターの中村安秀さん(日 本WHO協会)は、このような厳しい 環境下においても、子どもたちはしっか

高校牛の意識



堀川氏のスライドから



りと成長していることに驚くとともに、 ポジティブなお話がたくさん伺えたこと がとても嬉しい、という感想とともに、 「ポスト・トラウマティック・グロース(外 傷後成長)」という心理学で用いられる 言葉の説明がありました。

子どもの声を聞き、子どもの立場に立 って考えることがより良い社会をつくる ことにもつながっていくと実感した時間 となりました。

制度の適用状況

	政府 認可校		政府
	各種学校 認可校	各種学校 無認可校	無認可校
大学受験資格	0	0	×
JR通学定期券購入	0	×	×
学校保健安全法	×	×	×
独立行政法人日本スポーツ振興センター法 (災害共済給付)	×	×	×
学校給食法	×	×	×

出典/文部科学省委託研究(2010)「平成**21年度外国人教育に関する調査研究報告書 ブラジル人等の教育機会** の現状と課題について プラジル人学校等の準学校法人設立・各種学校認可の課題」 (研究代表者:中村安秀)

図2 小島氏の発表スライドから

第29回ワンワールドフェスティバル

去る2022年2月、第29回ワンワール ドフェスティバルが開催されました。前 年に引き続いて全面オンライン開催に なってしまったのは残念でしたが、日本 WHO協会はブース会場とセミナー会場 の2か所に動画を出品しました。ブース 会場では、私たち関西グローバルヘル ス (KGH) の集いの活動を、創設当時の 2019年1月までさかのぼって紹介した後、 オンラインセミナー第3弾「COVID-19か らの学びは国境を越えて」から「保健ボ ランティア:なぜ、日本には活躍の場が ないのか?」をダイジェスト版でお送り しました。セミナー会場では、同じくオ ンラインセミナー第3弾から「オンライ ン国際協力:できること、できないことは、 なに?」をワンワールドフェスティバル 用に編集してお送りしました。どちらの 動画もこれまでに1,000回を超えるアク セス数をいただいています。ご視聴いた だきました皆様、ありがとうございまし た。次回のフェスティバルでは、Face to faceでお会いできることを願っています ! (小笠原理恵)

写真:2019年の第26回ワンワールドフェス ティバル



第2弾 ポスト・コロナ時代の保健医療



第4弾 COVID-19 そのとき、現場は動いた!





KGHの集いへの参加には、参加費は要りません。参加資格もありません。グローバルヘルスに関心のある方は、どなたでもご参加 いただけます。また、一緒に運営委員として活動してくれる仲間も随時募集しています。老若男女を問わず、普段はつながりのない 人たちとつながって、真剣かつ楽しく切磋琢磨しあいましょう。

KGHの集いに関するお問い合わせは、kansai.gh.tsudoi@gmail.comまでお願いします。